

「九条輝け、2万の光で」阿賀野集會

～署名推進決起集會開催決定～

(集會名) 「九条輝け、2万の光で」阿賀野集會

～署名推進決起集會～

(日 時) 07年4月15日(日)

13:00(開場12:30)

～16:00終了

(会 場) 水原保健センター大講堂

(内 容) 講演 弁護士 金子修さん

映画 「蟻の兵隊」

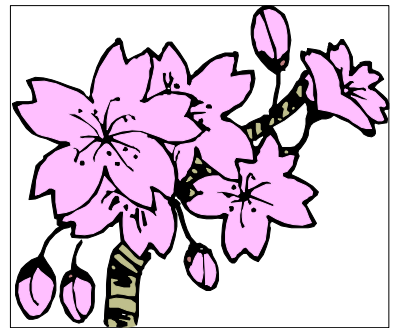
ドキュメンタリー映画 1時間40分

※ 資料代 1000円(会場受付にてお願いします)

今年になって「憲法九条を守ってください」の署名活動が開始されました。もうすぐ、町内の過半数の戸数に達しようとしている町内・集落もうまれようとしています。

この勢いを盛り上げるため、集會を開催します。

多くの皆様から参加いただきたく、お案内申し上げます。



映画「蟻の兵隊」の「案内

—新潟日報 日報抄より—

調査の過程で自ら行なった加害に苦しむ奥村さんの姿が胸に迫る。

残留兵の訴えを否定した司令官 澄田元中将の五十年前の国会証言は矛盾だらけだ。完全復員へあらゆる努力をした」と主張しながら、残留兵の多くを戦死させた戦闘の作戦指導をしたことを認める。

戦犯容疑の自分をかばってくれた軍閥から頼まれたため断れなかったとか。その作戦が敗色濃くなつた時期、軍閥側が日本へ脱走する手配をしてくれたという証言は冷静には読めない。

中国山西省で終戦を迎えた日本軍の司令官が、自らの戦犯訴追を逃れるために配下の兵士二千六百人を中国国民党系の軍閥に差し出し、人民解放軍と戦わせた。司令官は兵を残したまま祖国へ逃げ帰る。

封印されてきた旧軍指導層の腐敗疑惑に迫るドキュメンタリー映画「蟻の兵隊」である。

主人公は祖国再興のためという上官の命令で残留し、戦闘で重傷を負った胎内市出身の奥村和一さんである。

終戦から九年、本土に生還した残留兵は驚く。現地で勝手に除隊したことになる。名譽を回復したい。司令官残留命令を裏付ける文書を発掘し、裁判に訴えた奥村さんらを映像は追つ。

